

家庭教育支援事業

自治体名

岩手県久慈市

学校数

小学校 15校 中学校8校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

死者4名、行方不明者2名、住宅・建物被害 278 棟。水産業は甚大な被害を受けた。東日本大震災をうけ防災体制強化のため久慈市総合防災公園の整備を進めている。応急仮設住宅 2 地区 15 戸、災害公営住宅 3 地区 11 戸。

＜取組名＞

～ママケア講座～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
			1	久慈市子育て支援センター

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○		○		()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

久慈市では小中学校、子育て支援センターを会場に家庭教育学級を開催し、「子どもの発達段階に即した子育て」についての学習機会を提供している。

子育て支援センターでは、「私らしく輝くために～助産師が伝えたい心と体の健康～」と題し、岩手看護短期大学専攻科助産学専攻講師の西里真澄氏を招き、親子で学習する機会を設けた。産後の体のケアやストレス解消、食事と授乳、断乳・卒乳とその際のケア、母乳と生理の関係、ベビーマッサージの実技など、「子育て中の母親」に視点をおいた内容が参加した母親から大変好評であった。

講演後は個別相談を実施した。「日頃から心配していたことが解決できて良かった。」「普段顔を合わせている人には相談しづらい内容も相談できた。」との感想が寄せられ、専門の立場から助言をいただくよい機会となった。

「最近のお母さん方は、不安に思う事や知らない事をすぐスマートフォンで調べる。それがかえって不安を増大させているように感じる。」相談を終えて講師の西里氏はこのように印象を話された。本事業は「赤ちゃんサロン」で託児ボランティアの協力も得て実施しているが、育児についての悩みを共有し学ぶ場としての地域コミュニティの重要性を改めて感じた。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

災害発生時、家族が職場や学校など散在しており、市の中心を流れる河川の氾濫の恐れや海岸道路の通行止めなどの影響で、帰宅や住居周辺の避難所への避難ができず、家族の所在確認が困難であった。

また、小さな子どもを抱えての避難は物質的にも精神的にも耐えがたいものがあり、地域コミュニティの大切さを痛感した。

普段から避難所の確認や災害時に備えると共に、地域との繋がりを大切にすることが必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

子育ての悩みは子どもの成長と共に減るものではなく変化するものであり、子どもの発達段階に即した家庭教育に関する学習の機会を提供し、家庭の教育力を向上させることが必要である。また学校や地域、行政が連携し学び合う機会を設定することで、地域コミュニティづくりにつなげていきたい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・ 子育て支援センター…事業の広報、運営
- ・ 岩手看護短期大学…講師の派遣

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ 子育て支援センターに來所する母親から日頃の悩みや知りたいことなどを聞き取り、講座の内容に反映させると共に、講座への参加について積極的に呼びかけた。
- ・ 「赤ちゃんサロン」の中での企画とし、ボランティアの協力を得ながら親子で気軽に参加できる雰囲気作りに努めた。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

子育て支援センター会場では子育てに関する講座を年2回実施している。0歳～1歳児の保護者向け「ママケア」講座の他、2歳児からの保護者向けとして男性保育士連による「親子ふれあい遊び」を通して育児講座も開催した。今年度は父親の参加も多く見られ、家族のふれあいを楽しむ機会となり好評であった。

普段から足を運んでいる場所であること、気軽に参加できる雰囲気であることから参加者も多く、子育てに関して学ぶことのできる有効な機会となってきた。また保護者同士のコミュニケーションを図るきっかけにもなっている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

復興期を迎える被災地のこれからの子育てには男性の育児参加も重要とされている。

今回の取り組みを通して、グラフの通り、男性の参加が増えていることが成果として挙げられる。

◇課題や今後の展望

たくさんの親子が会場に足を運び学ぶことができるよう、また地域コミュニティづくりのきっかけになるよう、講座内容や広報活動について工夫していきたい。

小中学校会場においては、保護者の積極的な参加を促すことが課題であり、保護者の学習ニーズに応じた講座内容や実施方法について検討していきたい。

男女別参加者数の推移

